外国語学部スペイン語専攻と スペイン国立バリャドリード大学との国際交流

海外交流

大　内　　一*

Department of Spanish in School of foreign studies has an academic international exchange with Universidad de Valladolid of Spanish National University

Key Words：Universidad de Valladolid of Spanish National University, School of foreign studies, Academic international exchange

はじめに

外国語学部スペイン語専攻は、大学間協定と部局間協定を合わせて、スペイン語圏の5大学（マドリード自治大学、バリャドリード大学、サンティアゴ・デ・コンポステラ大学、メキシコ国立自治大学、ローマ教皇庁立ペルー・カトリック大学）と国際交流協定を結んでいる。今回は、これらのうち、大阪外国語大学時代から数えて最も長く協定を結んでいるスペイン国立バリャドリード大学を紹介する。

バリャドリード大学と大阪外国語大学との国際交流協定は、当時の阪外大の客員教授でバリャドリード出身であったホセ・ルイス・アルバレス-タラドリス教授と、彼とは旧知の仲で当時バリャドリード大学の副学長職にあったルイス・ミゲル・エンシソ・レシオ教授の尽力により1980年に締結された。筆者も修士課程在学時に、この協定に基づき、当時の文部省の国際交流制度による国費留学生として文学部中世史学科修士課程（当時の名称）に留学している。

バリャドリード大学の歴史

1241年に創設されたとされるバリャドリード大学の起源については三つの説がある。一つは、カスティーリャ王アルフォンソ8世とパレンシア司教テリョ・テリェス・デ・メネセスによって1208年に創設されたとされるパレンシア総合学院が、1241年にバリャドリードに移転されたことを起源とするもので、最も流布している説である。二つ目は、バリャドリードのサンタ・マリア・ラ・マヨール修道院を拠点とした私学校が出発点であるとする説である。そして、最近の研究に基づいて出されたもう一つの説は、バリャドリード市会の仲立ちによる歴代国王からの贈与を基盤に設立されたというものである。いずれにせよ、バリャドリード大学は、実質的に13世紀の下四半期には存在し、国王の保護を享受していたことは確かである。当初はラテン語文法、算術、聖書学などの初歩的な学問が教授されていたが、1346年に教皇クレメンス6世によって正式に総合学院として認定され、さらに1417年には教皇マルティヌス5世によって待望の神学部の設置が認められた。また、1491年には、当時の枢機卿ペドロ・ゴンサレス・デ・メンドーサによりサンタ・クルス学寮[1]が建設された。16世紀には、サラマンカ大学とアルカラ大学（現マドリード・コンプルテンセ大学）とともにスペイン王国の「三大大学」に指定された。この頃に教学組織が完成し、1517年には最初の学則がラテン語で作成され、とりわけ法学部[2]と医学部が名声を馳せた。

しかし、17世紀に入ると、スペインの全般的な衰退の影響により、バリャドリード大学を含む「三大大学」は、財源不足、教員の質の低下や不在、学生数の激減などに苛まれ、スペイン全体の高等教育の衰退が生じた。この状況は18世紀前半まで続いた。しかし、1770年以降、啓蒙専制君主カルロス3世の治世に大学改革の新たな機運が高まり、19世紀初頭から1857年までの間に、スペインの大学は、スコラ学的精神に支配され硬直化した中世的な大学から自由主義のもとで世俗的で集権的な大学へと変貌を遂げ、徐々に学生数を回復した。バリャドリード大学も名声を取り戻し、数多くの弁護士や官僚、

* Hajime OUCHI
1956年11月生まれ
大阪外国語大学外国語学研究科イスパニア語専攻修了（1983年）
文学修士（大阪外国語大学）
現在、大阪大学　言語文化研究科　言語社会専攻　教授　専門はスペイン中・近世史。趣味はテニス。
TEL：072-730-5358
FAX：072-730-5358
E-mail：ouchi@lang.osaka-u.ac.jp

写真1　サンタ・クルス館と学寮

写真2　サンタ・クルス館正面

写真3　バリャドリード大学歴史図書館

医師を輩出した。

バリャドリード大学は、20世紀に入って、既存の医学部と法学部に加え、1917年に文学部、1945年に理学部が設置された。1970年に公布された「教育に関する一般法令」を皮切りに、バリャドリード大学は新たな発展の時期を迎え、現在に至っている。

現在のバリャドリード大学は、バリャドリード市（バリャドリード県）のサンタ・クルス館を本部拠点とし、バリャドリード市内のほか、隣接する3県

写真4　法学部校舎

のソリア市（ソリア県）、セゴビア市（セゴビア県）、パレンシア市（パレンシア県）にもキャンパスをもっている。全キャンパスを合わせると、25の学部、30を超える研究所および実験センター、11の図書館、3博物館を有し、学生数（院生を含む）約25000人、教員数約2600人、職員約2100人を数える大規模な名門大学である。

外国語学部スペイン語専攻の国際交流

スペイン語専攻が阪外大の時代から実際的な学術交流を行っているのは文学部[3]である。スペイン語専攻は、2007年10月の阪大と阪外大との統合以降、公費留学生と私費留学生を合わせて毎年1，2名の学生をコンスタントにバリャドリード大学に留学させている。

バリャドリード大学文学部は、創設当初は法学部とともにバリャドリード市の市街地にある校舎のなかに置かれていたが、近年になって新校舎が郊外に建設されたためそこに移転した（旧校舎は法学部の校舎となった）。文学部には、イギリス学科、フランス語・ドイツ語言語学科、スペイン語言語学科、スペイン文学科、古典語学科、古代・中世史学科、近世・近代・アメリカ史学科、芸術史学科、考古学科、地理学科、哲学科、音楽学科の13学科が設置されており、スペイン語専攻の学生は、正規学生として、スペイン語言語学科、スペイン文学科、古代・中世史学科、近世・近現代・アメリカ史学科のいずれかに留学している。もっとも、外国語学部との性格の違いにより、修得単位の読み替えが複雑であるため、スペイン語専攻の学生は事実上、年次編入生

写真5　文学部校舎

写真6　文学部図書館

としてではなく、学年進行に縛られず興味のある授業を自由に受講できる学生、言わば科目履修生として受け入れられている。

スペイン語専攻の学生のもう一つの留学先はバリャドリード大学附属の言語センター[4]である。この言語センターは、文学部内に置かれていた外国人向けスペイン語コースを改組発展させ、1996年に郊外のベレン地区のキャンパス（ミゲル・デリベス）に新校舎が建設された。このセンターでは、バリャドリード大学の学生だけでなく、16歳以上の希望者を対象に、英語、ドイツ語、フランス語、イタリア語、ポルトガル語、中国語、ヒンディー語、日本語を教授する8言語コースと外国人向けスペイン語・スペイン文化コースが開設されている。スペイン語専攻の学生は、この外国人向けスペイン語・スペイン文化コースを留学先としている。私費留学生はもとより、交流協定に基づいて文学部に留学する学生も、スペイン語運用能力とスペイン文化に関する知識の向上を目指して、このコースで学ぶことが多い。

写真7　言語センター校舎（左）

写真8　言語センターラボ教室

おわりに

バリャドリード大学は大阪大学にとって大学間協定校であり、外国語学部の学生の留学先として限定されているわけではない。バリャドリードの町は、日本で言えば京都のような歴史と伝統に満ちたところであり、治安もよく、「美しい」スペイン語が話されているとして評判が高い。スペイン語やスペインの歴史・文化に接するには絶好の場所であり、読者の皆様には、是非とも一度は訪れて頂きたいと思う。

---

1 1479年に教皇シクストゥス4世の勅書を得て、メンドーサ枢機卿が建てたルネサンス様式の学寮（写真1）。現在は建物の正面側がサンタ・クルス館としてバリャドリード大学の本部機構とその歴史図書館が入っている（写真2）。後方は、大学附属サンタ・クルス学寮として現在も機能している（写真3）。

2 法学部の正面ファサードは18世紀初頭のバロック様式（写真4）。正面広場の石柱の上部の像は、パレンシア総合学院から移築したものと言われている。

3 文学部の教員数は約250名、約2000名の学生が学んでいる。文学部校舎（写真5）と文学部図書館（写真6）。

4 大学附属言語センター（写真7）とラボ教室（写真8）。